



学 会 通 信

第 100 号

2021 年 11 月 9 日発行

目次

2021 年度定例会総会開催通知（会告）	2
第 28 回年次大会のご案内【直前号】	7
ICoME 2021 のご報告	11
第 1 回研究委員会 研究会のご報告（オンライン開催）	12
第 2 回研究委員会 研究会のご案内（現地開催予定）	13
論文投稿のご案内	14
学会費納入のお願い，入会者・退会者	14
訃報	16

2021 年度定例会総会開催通知（会告）

正会員各位

下記により 2021 年度日本教育メディア学会定例総会を開催いたします。会員各位の出席をお願いいたします。なお、ご出席されない方は、事務局から送られたメールに記載されている様式で委任状をお送りください（2021 年 12 月 17 日（金）締め切り）。

2021 年 10 月 30 日
日本教育メディア学会
会長 小柳 和喜雄

記

1. 日 時：2021 年 12 月 18 日（土）13:00－13:50（年次大会第 1 日目）
2. 場 所：オンライン
3. 内 容：

（1）議案

第 1 号議案 2020 年度事業報告及び収支決算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2020 年度収支決算（案）、監査報告

第 2 号議案 2021 年度事業計画及び収支予算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2021 年度収支予算（案）

第 3 号議案 第 10 期会長・理事・監事承認の件

（2）報告事項

- ①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査経過と結果報告
- ②2022 年度年次大会の件
- ③その他

以上

(1) 議案

第1号議案 2020年度事業報告及び収支決算承認の件

2020年度に実施した事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第27巻1号、第27巻2号を刊行し、2020年度会費納入済み会員に配布した。
2. 学会通信第94号(2020年5月18日発行)、第95号(2020年7月3日発行)、第96号(2020年9月29日)、第97号(2021年1月27日発行)を刊行し、会員に配布した。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第27回年次大会を、オンライン(開催校:岩手県立大学)で開催した(2020年10月17日-10月18日)。

また、「第27回年次大会発表集録」を刊行した。

③学術交流等

1. 次の研究会を開催した。

(1) 2020年度第1回日本教育メディア学会研究会

「新たな可能性を見出す教育実践とメディア利用／及び一般」
(2020年7月25日:オンライン)

(2) 2020年度第2回日本教育メディア学会研究会

「地域連携の学びとメディア／一般」
(2020年12月19日:オンライン)

2. ICoME2020を共同開催した。

(2020年8月17日-8月18日:オンライン(事務局:JAEMS, 甲南大学))

3. 企画委員会による「教師のセルフスタディ」を発行した。

④2020年度収支決算(案)、監査報告

2020年度収支決算(案)を次ページに記す。

2020年度収支決算（自2020.4.1～至2021.3.31）

1. 収入の部

収 入 項 目	当初予算	決算額	差額	備 考
繰越金	3,699,127	4,759,591	1,060,464	2019年度から繰り入れ.当初予算額にミスあり.
正会員会費	1,526,000	1,722,000	196,000	246名分(昨年度195名. 正会員数311→290)
学生会員会費	88,000	80,000	▲ 8,000	20名分（昨年度16名分. 正会員数39→39）
団体会員会費	300,000	0	▲ 300,000	0団体分（団体会員6団体）
購読会員会費	70,000	14,000	▲ 56,000	2会員分
過年度正会員会費	42,000	812,000	770,000	のべ116名分
過年度学生会員会費	24,000	28,000	4,000	のべ7名分
過年度団体会員会費	300,000	0	▲ 300,000	0団体分
過年度購読会員会費	24,000	14,000	▲ 10,000	2会員分
入会金	50,000	36,000	▲ 14,000	35→18名分
雑収入	180,000	87,037	▲ 92,963	別刷り印刷、利子、誤入金
計	6,303,127	8,624,315	2,321,188	

2. 支出の部

支 出 項 目	当初予算	決算額	差額	備 考
通信運搬	100,000	216,263	116,263	学会誌・別刷郵送費、その他郵送費
消耗品	50,000	220	▲ 49,780	文具等
設備・什器	0	0	0	
印刷製本	1,000,000	616,110	▲ 383,890	教育メディア研究27(1)・27(2)、別刷
会議費	50,000	2,000	▲ 48,000	理事会会議費
国際会議開催補助費	300,000	34,913	▲ 265,087	ICoME2020オンライン開催のため
借損料	30,000	0	▲ 30,000	理事会会議場借料
旅費	50,000	0	▲ 50,000	監査に係る旅費、理事会に係る旅費
諸謝金	500,000	1,068,140	568,140	翻訳代、査読システムマニュアル作成、事務局補助謝金、論文誌作業謝金、
年次大会委託費	400,000	▲ 286,480	▲ 686,480	岩手県立大学学会等開催助成500,000円、大会参加費386,000円による黒字
研究会委託費	120,000	440	▲ 119,560	オンライン開催のため
企画委員会委託費	50,000	49,440	▲ 560	「教師のセルフスタディ」第2集の発行
システム運営費	355,000	215,138	▲ 139,862	ホスティングサーバー料金、DNS料金、会員管理システム
論文賞賞金	65,000	55,939	▲ 9,061	賞金、賞状
雑費	50,000	93,205	43,205	振込手数料
予備費	3,183,127	10,000	▲ 3,173,127	教育関連学学会会費
次年度繰越金	0	5,477,300	5,477,300	2021年度に繰り越し
計	6,303,127	7,552,628	1,249,501	

第2号議案 2021年度事業計画及び収支予算案

2021年度に実施する事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第28巻1号、第28巻2号を刊行し、会員に配布する。
2. 学会通信第98号－第101号を刊行し、会員に公開する（メーリングリスト、Webサイト）。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第28回年次大会を、オンライン（開催校：早稲田大学）で開催する（2021年12月18日－12月19日）。

また、「第28回年次大会発表論文集」を刊行し、申込者に配布する。

③学術交流等

1. 次の研究会を開催する。

(1) 2021年度第1回日本教育メディア学会研究会

(2021年7月31日：オンライン開催)

(2) 2021年度第2回日本教育メディア学会研究会

(2022年2月27日：現地開催)

2. ICoME2021を共同開催する。

(2021年8月18日－20日：オンライン開催，事務局：KAEIM，全南大学校)

3. 企画委員会による特別セッション「現職教師がセルフスタディを進めるために」を年次大会で開催。

④2021年度収支予算（案）

2021年度収支予算（案）を次ページに記す。

2021年度予算（自2021.4.1～至2022.3.31）

1. 収入の部

収 入 項 目	前年度決算	予算額	備 考
繰越金	5,477,300	5,477,300	2020年度から繰り入れ
正会員会費	1,722,000	1,421,000	7,000円×290名の納入率70%
学生会員会費	80,000	3,977	4,000円×39名分の納入率60%
団体会員会費	0	300,000	50,000円×6団体分の納入率100%
購読会員会費	14,000	70,000	10会員
過年度正会員会費	812,000	42,000	7,000円×6名分（未納者の30%）
過年度学生会員会費	28,000	24,000	4,000円×6名分（未納者の30%）
過年度団体会員会費	0	300,000	50,000×6団体分（未納団体の50%）
過年度購読会員会費	14,000	24,000	7,000円×2会員
入会金	36,000	50,000	7,000円×2会員
雑収入	87,037	100,000	別刷り印刷，利子
計	8,624,315	7,812,277	

2. 支出の部

支 出 項 目	前年度決算	予算額	備 考
通信運搬	216,263	300,000	学会誌・別刷郵送費、その他郵送費
消耗品	220	50,000	文具等
設備・什器	0	50,000	新事務局什器整備費
印刷製本	616,110	1,000,000	教育メディア研究28(1)・28(2)，別刷
会議費	2,000	2,000	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	34,913	0	ICoME2021国外開催のため
借損料	0	0	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	0	50,000	監査に係る旅費
諸謝金	1,068,140	1,100,000	事務局補助謝金，論文誌作業謝金
年次大会委託費	▲286,480	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	440	60,000	研究会委託費 1回はオンラインのため1回分
企画委員会委託費	49,440	0	企画委員会委託費 年次大会での企画のため
システム運営費	215,138	300,000	ホスティングサーバー料金，DNS料金，会員管理システム，選挙システム
論文賞賞金	55,939	60,000	賞金，賞状
雑費	93,205	100,000	振込手数料，教育関連学会連絡協議会年会費
予備費	10,000	4,340,277	
次年度繰越金	5,477,300	0	
計	7,552,628	7,812,277	

第 28 回年次大会のご案内【直前号】

2021 年度日本教育メディア学会第 28 回年次大会にあたってのご挨拶（最終報）

大会実行委員長 森田裕介（早稲田大学）

第 28 回日本教育メディア学会年次大会は、2021 年 12 月 18 日（土）、19 日（日）に開催することとなりました。現地開催（一部オンライン）と全面オンライン開催の両方の実施可能性が検討されておりましたが、緊急事態宣言の延長などの状況を鑑み、全面オンラインでの開催が決定されました。

振り返ってみますと、2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、教育に携わる多くの方が教育メディアの有用性を再認識した 1 年でした。会場となる予定であった早稲田大学では、2020 年 4 月に開設された CTLT（Center for Teaching, Learning, and Technology）を中心として、授業実践に関する知見を教員間で共有しながらコロナ禍を乗り越えてきました。また、2020 年 9 月には、オンライン授業アンケートの結果を踏まえて、ポストコロナにおけるハイブリッド授業化を明言しました。ここまで、オンライン授業を推進してきた背景には、教育メディアの研究知見や、活用した経験ならびに実績があったことは言うまでもありません。

2021 年度以降は、すでに皆様がお気づきのとおり、多くの学びに教育メディアが活用されることになります。本大会では、これまでに蓄積した知見を踏まえ、有益な研究の成果を共有し、議論を通してよりよい学びの創造を拓いていく、そんなコミュニティ構築の機会を提供いたしたく存じます。大会実行委員会一同、皆様のオンラインでのご参加を心よりお待ちしております。

1. 日時と場所

2021 年 12 月 18 日（土）、19 日（日）

会場：オンライン（参加申込後に示される専用サイトから Zoom にアクセスします）

2. 大会プログラム

1 日目 12/18（土）

午前：理事会

13：00－13：50 総会

14：00－14：50 大会企画 1 オープニングセッション
「あたらしい学校と教育メディア」

15：00－17：00 大会企画 2 シンポジウム
「教育改革と教育メディア研究」

2日目 12/19 (日)

9 : 30 - 11 : 30 一般研究発表 (1)

企画委員会 特別セッション

「現職教師がセルフスタディを進めるために」

11 : 30 - 12 : 30 昼食

12 : 30 - 14 : 30 課題研究

14 : 40 - 16 : 40 一般研究発表 (2)

3. 大会企画

(1) オープニングセッション「あたらしい学校と教育メディア」

中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、情報化・少子高齢化等、急激に変化する社会へ向けた新たな学校教育像が示されました。個別最適な学びと協働的な学びによる授業外の学習を含む学びの充実、履修主義と修得主義の組み合わせなど、従来の授業改善にとどまらない方向性が含まれます。その基盤として GIGA スクール構想が位置づけられており、教育メディアに求められる役割も変化していくと考えられます。本企画では、すでに先駆的な教育メディアの活用と教育課程を実施している私立学校から最新の取り組みを伺い、教育メディア研究の新たな分野・アプローチの創出をめざします。

・パネリスト

荒木貴之 (ドルトン東京学園中学校・高等学校・校長)

三宅貴久子 (瀬戸 SOLAN 小学校・副校長)

有山 裕美子 (軽井沢風越学園・教諭)

・コーディネーター

稲垣忠 (東北学院大学)

(2) シンポジウム「教育改革と教育メディア研究」

現在、初等中等教育および高等教育では、様々な教育改革が検討・実施されています。初等中等教育では、GIGA スクール構想の推進、高等教育では授業のオンライン化、高大接続に関わる入試等の再構築や学修者本位の大学教育の実現などがあり、教育メディアの役割がますます重要になります。本企画では、メディア研究を教育社会学の立場から研究されている大多和 直樹 先生 (お茶の水女子大学) を登壇者としてお招きします。教育改革における教育メディアの役割を教育社会学の理論的かつ批判的視座から講演いただきます。具体的には、次の2つについて話題提供いただきます。ひとつは、外部リソースとしての教育メディアの役割、もうひとつは、多様な学びの評価の役割です。それぞれ1時間ずつお話ししていただき、前半は放送教育を研究される宇治橋会員 (NHK 放送文化研究所)、後半は評価の研究をされている森田会員 (早稲田大学) と対談形式で進めます。

・登壇者：大多和直樹 先生 (お茶の水女子大学)

・対談者：宇治橋祐之 (NHK 放送文化研究所)

森田裕介 (早稲田大学：年次大会実行委員長)

・コーディネーター：今野貴之 (明星大学)

(3) 企画委員会 特別セッション「現職教師がセルフスタディを進めるために」

第9期の企画委員会では、現職教師による自身が実施した授業を対象とした実践研究としてセルフスタディに焦点をあて、年次大会での企画や「教師のセルフスタディ」誌を発行しました。本セッションでは、現職教師が教育実践研究活動を行うために、どのようなことに意識をして日々の実践に取り組んでいけば良いのかについて、実際に教育実践研究活動を行なっている現職教師3名の先生、共同研究を行っている大学教員3名の先生にパネリストとしてご登壇いただき、両方の立場から議論します。

- ・パネリスト: 林一真 (名古屋市立白水小学校)・梅田恭子 (愛知教育大学)・津下哲也 (備前市立香登小学校)・中川一史 (放送大学)・斉田俊平 (大阪市立今里小学校)・寺嶋浩介 (大阪教育大学)
- ・コーディネーター: 齋藤ひとみ (愛知教育大学)・寺嶋浩介 (大阪教育大学)・関戸康友 (パナソニック教育財団)

4. 課題研究プログラム

以下の3件のテーマについて討議します (発表申し込み締め切りました)。

課題研究テーマ1：1人1台学習者用情報端末とメディア・リテラシー

コーディネーター: 中橋雄 (日本大学)・宇治橋祐之 (NHK 放送文化研究所)

学習者用情報端末、高速インターネット、学習支援システムなどが教育現場に整備されることで、学習者が「意図をもって構成されたメディア」に主体的にアクセスして学ぶ機会は増えると考えられます。また、得られた情報や自分の考えについてメディアを通じて表現・発信して学ぶ機会も増加するでしょう。さらに、家庭に端末を持ち帰り利用することを機に、家庭でのメディア・リテラシー育成のあり方も検討していく必要があります。こうした状況において求められるメディア・リテラシーに関する教育と研究のあり方について議論します。

課題研究テーマ2：教育メディア研究からみたプロジェクト学習

コーディネーター: 山本良太 (東京大学)・池尻良平 (東京大学)

近年、様々な段階や場面において学習者が主体的に探究課題に取り組む実践が展開されており、それらの中には、既存の研究領域にとらわれない挑戦的な実践が見られます。このような様々な形態の探究的な学習を「プロジェクト学習」という観点から広く捉えることによって、体系的な知見の蓄積に発展すると考えられます。また、教育メディア学会には、ICTを含む様々なメディア活用による効果検証やその活用方法、さらには学習環境のデザインまで教育メディアを軸とした幅広い知見の蓄積があり、教育メディア研究の視点からプロジェクト学習の理論の発展や精緻化、今後の展開も含めた議論にも展開可能であると考えられます。以上から、プロジェクト学習の形態に近い様々な実践を募集し議論する場を設けます。

課題研究テーマ3：GIGAスクール時代のデジタルコンテンツ

コーディネーター: 中川一史 (放送大学)・堀田博史 (園田学園女子大学)

学校への1人1台端末環境の整備により、様々な活用の工夫について、研修や事例の報告が行われてい

ます。学習者用デジタル教科書や NHK for School, その他デジタル教材など, 端末活用を視野に入れた授業や家庭学習で使える様々なコンテンツが見受けられ, 実践での選択肢も増えつつあります。このような中, これらコンテンツを用いた教育実践はもとより, デジタルコンテンツの開発・評価, デジタル教科書のあり方, カリキュラムの開発, オンライン授業に関する知見等に関して幅広く検討します。

5. 参加方法・参加費について

参加申し込みは, 本年度よりイベント管理システムの Peatix を使用します。下記 URL あるいは右の QR コードからお申し込みください。なお, 研究発表の申し込みはすでに締め切っております。



<https://jaems-2021.peatix.com/>

参加費は, 昨年通り, 以下の通りとします。事前支払いは本年度より, 大会前日まで受け付けます。当日支払いも可能ですが割高となります。支払い完了後, 大会専用サイトの URL とアクセスパスワードが通知されます。

会員 3,000 円(事前), 4,000 円(当日)

学生会員 1,000 円(事前), 2,000 円(当日)

非会員 4,000 円(事前), 5,000 円(当日)

※ただし, 非会員の現職教員は無料

学生非会員 2,000 円(事前), 3,000 円(当日)

6. 共催・実行委員会

第 28 回年次大会は早稲田大学大学総合研究センターとの共催となります。以下の年次大会実行委員会および年次大会委員会が企画・運営を担当します。

年次大会実行委員長 森田裕介 (早稲田大学)

委員 阿部真由美 (早稲田大学)

委員 池尻良平 (東京大学)

委員 岸磨貴子 (明治大学)

委員 向後千春 (早稲田大学)

委員 今野貴之 (明星大学)

委員 渡邊文枝 (早稲田大学)

委員 渡辺雄貴 (東京理科大学)

年次大会委員長 稲垣忠 (東北学院大学)

年次大会副委員長 堀田龍也 (東北大学)

年次大会副委員長 森田裕介 ※年次大会実行委員長兼任

7. その他・お問い合わせ

前回大会に引き続き本大会において、発表予稿集は刊行せず、会員の皆様に PDF ファイルの形での配布となります。事前にメールにてダウンロード先の URL をお送りします。対面開催の際は、ご自身の端末等を持参するか、事前に学会の Web からプログラムを印刷してきてください。

年次大会に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

第 28 回年次大会実行委員会事務局

メールアドレス jaems.taikai2021@gmail.com

ICoME 2021 のご報告

研究会（国際）報告

ICoME (International Conference for Media in Education) は、今回で第 19 回目の実施となりました。ICoME は、日本教育メディア学会 (JAEMS)、韓国教育情報メディア学会 (KAEIM)、中国教育工学会 (CAET)、アメリカ TCC (Technology, Colleges and Community) オンラインカンファレンスとの連携によって、開催される国際学会です。

ICoME2021 は、今夏に韓国の全南大学校にて開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、現地で開催することが困難であると判断され、ICoME2020 に引き続きオンライン開催へと変更しました。

■日時：2021 年 8 月 18 日（水）－20 日（金）

■場所：オンライン開催（事務局：KAEIM, 全南大学校）

■テーマ：Redesigning Learning in the Digital Transformation and AI

■ウェブサイト：<https://www.icome.media/>

ICoME2021 では、新しい試みとして 3D アバターを用いたオンライン仮想空間上での研究発表やインタラクションを行いました。新しいオンライン上でのインタラクションを体感いただくよい機会になったと思います。以下に、ICoME2021 の様子を YouTube にアップしていますので、是非ご覧ください。

■YouTube 動画

<https://www.youtube.com/watch?v=UvDjmXNVY6U>

ICoME2021 には、世界 10 カ国から 240 名の方に参加いただきました。コンカレントセッションでは 33 件、学生ラウンドテーブルでは 35 件の発表がありました。学生ラウンドテーブルでは、12 件 30 名の若手研究者らが Young Scholar Award を受賞しました。

来年度の ICoME2022 は、ハワイにて実施します。詳細は、日本教育メディア学会のウェブサイトにてご案内します。

第 1 回研究委員会 研究会のご報告（オンライン開催）

テーマ「新しい生活様式における教育とメディアの活用／一般」

■日時：2021 年 7 月 31 日(土)

■場所：オンライン開催（担当：富山大学・黒田卓）

新型コロナウイルスの猛威は、私たちの生活様式を大きく変えてきています。学校教育においても、学びを止めないための様々な工夫を行いながら、新しい時代の学びのあり方を模索しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、GIGA スクール構想が前倒しで実施され、2020 年度末までに、すべての小、中学校において、一人 1 台端末の整備が行われました。多くの都道府県では、高等学校でも同様の整備が進められています。デジタル教科書の利用も、急速に普及してきています。これらにより、子どもたちの学びのあり方も、大きく変わっていくことが考えられます。このような中、メディアを用いた、学びを止めないための実践が、各地で行われてきています。先進的な実践や、新しいメディアの活用方法なども提案されてきています。このような取り組みや、新しいメディア活用研究を多くの皆様にご報告いただき、今後の可能性を探っていくため、幅広く発表を募集しました。その結果 7 件の研究報告があり、当日は約 20 名の参加をいただきました。

午前中に 4 件、午後から 3 件のご発表をいただき、活発な質疑応答が行われました。午前の発表では、一人 1 台端末を利用した授業設計や実践、また一人 1 台端末の環境を前提とした教員研修に関する発表が行われました。一人 1 台端末環境をより生かした授業をどのように作っていけばよいのか、また操作研修だけでなく、より深い学びにつなげていく教師の力量形成のための研修のあり方について、発表をもとに参加者と議論を深めることができました。午後の発表では、幼児教育における e ポートフォリオや学習者用デジタル教科書の活用の可能性、新型コロナによる休校時と再開後の学校でのメディア利用状況に関する発表が行われ、学びを止めないために、また日々の学びをより深めるためにどのようにメディアを活用していけばよいのか、何が障壁になっているのかといったことについて、発表をもとに活発な議論が行われました。

大学のテスト期間やオリンピックの開催期間と重なり参加者は少し少なめではありましたが、内容的には大変充実した研究会となりました。ご参加、ご発表いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。

文責：黒田 卓（富山大学大学院教職実践開発研究科）

第2回研究委員会 研究会のご案内（現地開催予定）

テーマ「1人1台端末環境での新たな学びとメディアリテラシー／一般」

■日時：2022年2月27日（日）

■担当：中村学園大学教育学部・山本朋弘

GIGA スクール構想によって、児童生徒の1人1台端末環境が整備され、小中学校では導入期から活用期に移行する段階であり、高等学校の端末整備も進んでいます。特に、コロナ禍の状況もあって、オンライン授業に取り組む学校が増えてきました。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が求められる中、1人1台の情報端末環境を活かした新たな学びを構築していく段階にあります。このような新たな学びを考えていく上において、メディアの活用は、避けて通れない課題といえます。

従来の教師主導の学びから学習者中心の授業への移行、児童生徒のリテラシーの育成、1人1台の情報端末環境を活かした実践研究が各地で進められています。また、ネットいじめや個人情報保護など、メディアとどう向き合うかについても議論が起きています。さらに、教員養成や教員研修でも、教師の授業デザイン力等を高める方策が提案されています。

本研究会では、このような研究成果や課題を多くの皆様にご報告いただき、今後の可能性を探ってみたいと思います。1人1台端末環境での新たな学びやメディアリテラシーに関する実践研究、開発研究、能力育成、教師教育など、幅広いご発表を募集いたします。学校の授業に限らず、家庭での利活用も含めて、多面的に議論を深めていきたいと思います。

■発表申込開始日 2021年12月8日（水）

■発表申込締切日 2022年1月5日（水）

■原稿送付締切日 2022年1月18日（火）

■プログラム公開日 2022年2月1日（水）

■参加申込期間 2022年2月1日（水）～2022年2月20日（日）

■研究会当日 2022年2月27日（日）

会場：中村学園大学7号館 7501教室、7502教室、7503教室

アクセス：

<https://www.nakamura-u.ac.jp/outline/map.html>

<https://www.nakamura-u.ac.jp/outline/pdf/map.pdf>

※10月1日時点では、現地開催としています。コロナ禍の状況によっては、オンライン開催に変更する場合があります。

論文投稿のご案内

編集委員会

〆切：随時

『教育メディア研究』では、一般論文を広く募集しています。〆切は特にありません。随時受け付け、その都度、査読プロセスを始めています。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

学会費納入のお願い、入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2021年度（2021年4月1日から2022年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、会員システムからお手続きください。

論文誌は、会費が納められている会員に対してのみ発送しております。まだ納付されていない会員につきましては、納められたことを確認した後、発送いたします。

銀行振り込みをご希望される場合は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガッカイ）
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、会員マイページにログインの上、登録情報の確認をよろしくお願いいたします。

また、まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も、この機会にマイページ登録をお願いいたします。

【入会者・退会者・除籍者】※敬称略

新入会員・正会員 (10名)・・・京谷麻矢, 武井三也, 江原数彦, 曾根原和明, 渡邊光輝, 秋山剛志,
堀川紘子, 名知秀斗, 平島和雄, 安井政樹

新入会員・学生会員 (5名)・・・藤丸浩一, 設楽遥, 鎌田貴大, 峯田雅斗, 大村優花

退会者・正会員 (2名)・・・森治美, 加藤範男

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条の改正が承認されました。改正された規定では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。

会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、事務局 (office@jaems.jp) までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

(1) 正会員, 学生会員, 団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。

(2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。

会員総数 342名・14団体

名誉会員 : 4名

正会員 : 297名

学生会員 : 41名

団体会員 : 6団体

購読会員 : 8団体

(令和3年10月30日現在)

訃報

本学会の前史の学会から、多大なご支援とご指導をいただき、副会長も担当くださいました秋山 隆志郎（あきやま たかしろう）先生（元東京情報大学教授，元 NHK 放送文化研究所，2010 年度より本学会名誉会員）がお亡くなりになりました。

○2021 年 8 月 18 日ご逝去。享年 87 歳。

○家族の強いご意思で，葬儀・告別式は近親者で行われました。

なお香典等は，ご辞退されておられます。

先生のご冥福を心からお祈りしたいと思います。

日本教育メディア学会 事務局

〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1

兵庫教育大学 永田智子 研究室内

E-mail : office@jaems.jp

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 渡辺雄貴（東京理科大学）

副委員長 岩崎千晶（関西大学）

委員 井ノ上憲司（大阪大学）

遠海友紀（東北学院大学）

竹中喜一（愛媛大学）

多田泰紘（京都橘大学）